

心通わせるあたたかな医療サービスの創発:文医融合「ほとめきプロジェクト」

久留米大学(江藤 智佐子)

文学部学生と病院スタッフが協働する文医融合「ほとめきプロジェクト」は、異なる専門分野を往還する越境学習と、緊張と対話の連続によるコンフリクトマネジメントによって「矩」を超えた総合知を醸成し、病院のニッチな課題を解決しイノベーションを生む取組みである。病院・医学部と文系学部を併せ持つ大学の特性を生かし、学生が患者・市民目線で院内課題に介入することで、医療スタッフと患者との「共通認識のズレ」に対する通訳や病院の心通わせる医療の可視化などの共創を促している。デザイン思考も活用し、多角的視点から新たなサービスの実装につながっている。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

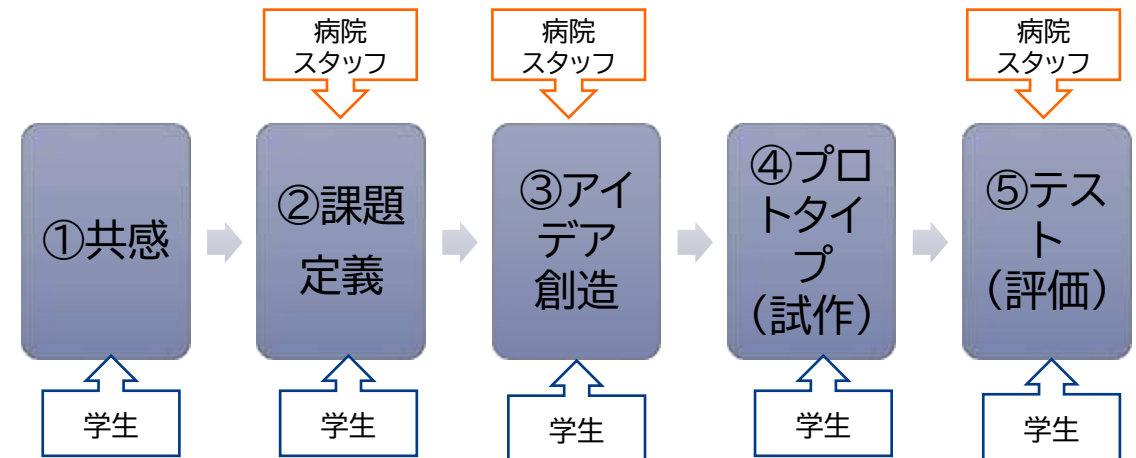
「心通わせるあたたかな医療サービス」の創発を目指し、学生と病院スタッフが病院の短期的なニッチ課題をデザイン思考に基づいて解決し、そのサイクルを継続することで、長期的には高齢者が医療を安心して受けられる社会の実現を目指す。

ビジョン達成の課題

病院内の課題を学生が外部目線で発見し、看護部が窓口となって実現可能性を整理し院内に提案するが、専門職間や患者との対話調整、企画・提案・試作に要する時間と労力が大きい。予算や資材、マンパワー不足が課題である。

「矩」を超えた場づくり / 得られた新たな価値

「仁」をテーマとした「心通わせるあたたかな医療サービス」の考案は、世代間、専門分野間の「矩」を超える協働・共創によって、多角的・立体的な視点を育み、限られたリソースの中で工夫・改善に取り組むイノベーション人材の育成につながる。高齢化が進む地方都市で安心して生活できるまちづくりを目指すものである。



情報社会学科

デザイン思考5つのステップを用いた
「ほとめきプロジェクト」のアイデア創発プロセス

心通わせるあたたかな医療サービスの創発：文医融合「ほとめきプロジェクト」

文学部学生と病院スタッフとの協働・共創による地域密着型課題解決プロジェクトは、異なる専門分野を往還することによる越境学習と緊張と対話の連続によるコンフリクトマネジメントによって「矩」を超えた総合知で課題を解決し、医療スタッフと学生のイノベーションを醸成。

文医連携期

文医融合期



心が通い、信頼される医療

仁

想いの可視化

国手の矜は
常に仁なり



「もったいないをおしゃれに変身！
～簡単に楽しく尿バックカバーを作ろう～
(導尿カテーテルがつかなくなった尿バックがそのまま見えることが恥ずかしいとの声に、SDGsの観点からリサイクル資材を活用した裁縫をしない簡単な方法で安価に作れる尿バックカバーを考案。作り方動画も制作し、市民講座で報告。福岡県SDGs「FUKUOKA OPEN Lab+」でも事例紹介。)

これらの栄養室との協働が
病院機能評価「S評価」
(最高評価)に。

2024

30周年記念動画
「医療センター30年の
キセキ」
(心が通い、信頼される医療
を動画で表現。)

2023



栄養室に患者からの
メッセージを掲載するボード制作
(入院中、食事で患者を支える栄養室の仕事
を可視化する動画制作。患者からの感謝メッ
ッセージを掲示・展示するメッセージボードを
12か月分制作し、院内で可視化。)

2022

医療相談室
「情報コーナー」
を設営
(患者と家族が相談し
やすい環境整備を考
案・設営。)

2021

手術・入院説明動画制作
(何度も患者と家族に手術前、入院の説
明をする看護師の負担軽減と家族も自宅
で確認視聴できるための股関節全置換手
術と入院説明動画を制作。)

2020

Covid-19感染拡大

心をつなぐオンライン面会
(Covid-19感染拡大により面会ができな
くなった患者と家族の心をつなぐオンライ
ン面会を設置。看護師の負担を増やすこと
なく利用できる方法を考案。打ち合わせも
オンラインで実施し、医療スタッフにオン
ラインツールの活用方法も提案。)

2019



患者目線の
リーフレット制作
(初めて病院を訪れた患者や家族
に分かりやすいフロアマップを掲
載したリーフレットを制作。)

2018



心通わせる
セタイイベント
(入院患者の願いを短冊
に。家族と患者のメッ
セージボード機能。)



車いす専用「おもいやりスペース」
(車いすを利用する患者と付き添い者が、院内で安
心して待つことができる専用スペースを可視化。)



栄養室のお仕事PRとキャラクター制作
(減塩弁当の掛け紙や栄養アドバイスの記事に親しみをもっても
たえるようにキャラクター「ばるッペ」を制作。商標登録。)

車いす移動で書類等を
入れる取り外し可能な
「まごころポケット」
(院内を診察や検査で移動する時に渡さ
れる書類や薬などを手軽に入れて持ち運
べる車いす用のポケットを制作。)



心通わせるあたたかな医療サービスの創発:文医融合「ほとめきプロジェクト」

越境学習によるイノベーション



ほとめきプロジェクト

- 異分野間の緊張から対話による融合へ
- 学生が媒介となったプラットフォームでの多職種連携
- 協働・共創による「総合知」の医療サービス

ほとめきプロジェクトは、久留米大学文学部情報社会学科の学生と久留米大学医療センターの協働による文医融合プロジェクトである。患者・市民目線で課題を発見し、文系学生ならではの柔軟な発想による課題解決、企画創発を2018年度から継続中である。

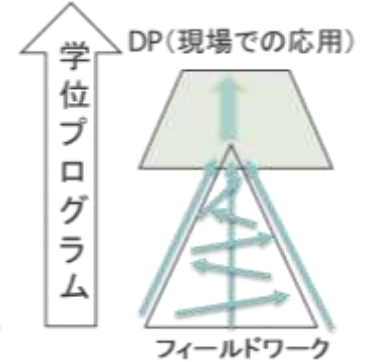
患者を中心としたベクトルの共有とチューニング

「仁」を軸に、心が通い信頼され医療サービスの可視化、具現化



久留米大学 文学部
KURUME UNIVERSITY FACULTY OF LITERATURE

患者・市民目線を活かした
デザイン思考による企画創発



文系の柔軟性と専門性

情報社会学科ディプロマ・ポリシーを
目標とした学際性を活かした
「総合知」育成



久留米大学医療センター
KURUME UNIVERSITY MEDICAL CENTER

専門分野の「矩」を越える
コンフリクトマネジメント



高齢者の利用が多い回復期病院から地域へ
安心して生活できるまちづくりへ